

三年間で身につける力

「オッス！」

「おはよう」とあいさつをした私に、こう返してきた三年生の男子がいました。私は久しぶりに腹が立つやら悲しいやら「失礼だ」と自分の思いを発しましたが、当の生徒はどう思ったのでしょうか。普段気にとめていないから、相手の立場やをわきまえないそんなあいさつが口からぽろっと出てしまったのでしょうかね。

瑞浪北中の本年度の重点は三つありますが、その一つに「環境の充実」を掲げています。環境とは、人間関係も含めた「生活環境」と、日常の言語を中心にした「言語環境」の二つを指します。どちらも生活を充実させるためや、よりよい人間関係をつくるために非常に大切なものです。

中学生は試行錯誤や反省を繰り返して力をつければよい、と私は考えています。しかし、先の生徒でいうと、残された時間はあと四ヶ月余り。本来なら、生活の中で相手を意識した言葉遣いができていてほしい時期ですね。彼は理解はできているでしょうが、それだけでは不十分です。日常の中で、言葉や態度に出して初めて「力」と言えますからね。

現在、高校見学会の真っ最中です。終わった生徒が校長室にその報告にきています。入室の仕方、受け答えの仕方、質問に対する答えの内容、退出の仕方など、報告に来た三年生は礼儀をわきまえたすばらしい姿で臨んでいます。

報告に来てくれた生徒の姿を見ると、私はうれしくなりません。なぜなら、校長室の入り方や、質問に対する答え方をしなくても、これまで身につけた力で立派に報告ができています。からです。正直言って、入試に向けた面接練習は要らないのではないかと思っています。

三年生のみなさん、今のあなたの力で入試の面接試験に挑んではどうですか。相手のことを考え、失礼のないように振る舞える力がこの二年半でついているはずですから。それに、面接の勉強をすると、全員が同じところで礼をして、同じような答えをして、同じような印象しか残しません。いかにも「仕込まれた姿」という感じになります。

あなたがこれまで身につけてきた礼儀やマナー、そして、相手の立場を察する力を、あなたの判断で発揮してみてはどうですか。もちろん面接を不安に思う人はいるでしょうから、そういう人だけ「面接について指導してください」と意思表示し、主体的に練習すればよいのです。私は校長として、今の三年生なら自信もってそのまま面接に送り出せますよ。

先の生徒もきつと入試の場面では「オッス！」とは言わないでしょうからね。

(十月二十三日 記)